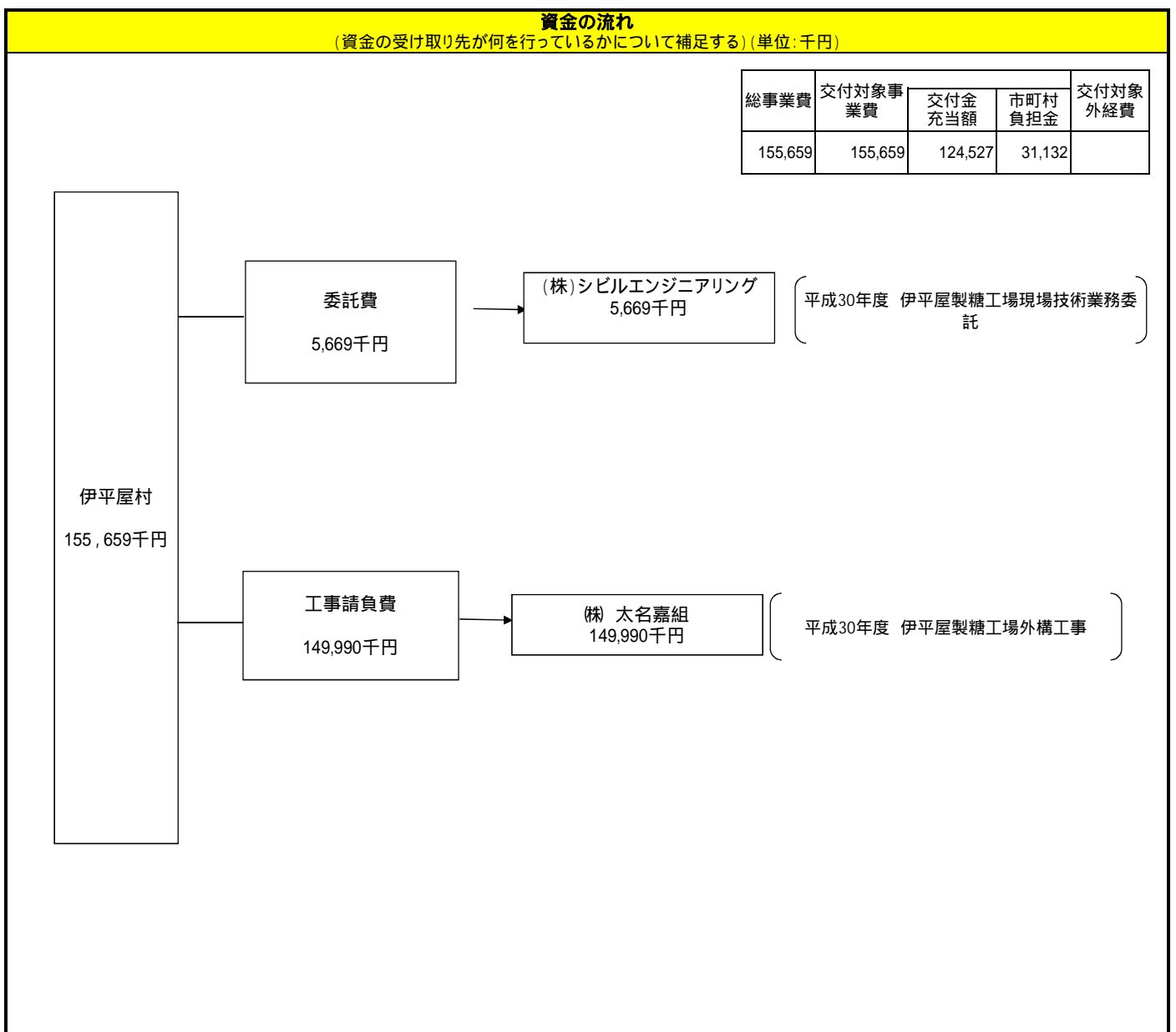


市町村名		伊平屋村					
平成30年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-	新伊平屋村製糖工場建設工事		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-(12)-イ		
担当部課名	農林水産課	事業実施(予定)年度	平成29年～令和元年度	沖縄振興基本方針該当箇所	農林水産業の振興 - 1 - (6)		
事業内容	伊平屋村の製糖工場は、沖縄含蜜工場(8工場)の中でも最も古い施設で移設して52年が経過している為、建物の腐食や老朽化が著しく品質低下の恐れがある。平成29年度より沖縄含蜜施設近代化事業で建物・設備設計を実施し、それに併用して、沖縄県振興特別推進交付金(特別枠)を活用して施設を行い工場の機能の向上を図る伊平屋村さとうきび振興の強化を図る。						
効果発現年度	当年度 後年度(令和2年度)						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他( )						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H29年度	29年度(繰越)	H30年度	H30年度(繰越)	R2年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	201,153		193,362		
		(b)予算現額	201,153		193,362		
		(c)増減額(b-a)	0	0	0	0	0
		(d)繰越額	0	136,365	0	193,362	
	A.計(b+d)		201,153	136,365	193,362	193,362	0
	B.執行済額		64,788	136,365	0	155,659	
	うち交付金充当額		51,830	109,092	0	124,527	
	次年度繰越額		136,365	0	193,362	0	
	執行率(%) (B/A)		32.2%	100.0%	0.0%	80.5%	#DIV/0!
予算の状況の説明		農振除外手続きに時間を要し、平成29年度繰越分の工事進捗が遅れたことにより平成30年度の事業発注が遅れ全額繰越となった。また、関連事業である「含みつ糖製糖施設近代化事業」の工事進捗の遅れにより、現場が煩雑となり、一部工程が実施出来ず、翌年度に実施することとしたため、37,703千円が不用額となった。					
活動目標(指標)及び達成状況	30活動目標(指標)		達成状況				
			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	外構工事(土工、排水構造物工、擁壁工)の実施	目標	( 外構工事の実施 )	( )	( )	( )	
		実績	実施済み				
		目標	( )	( )	( )	( )	
	実績						
達成状況説明	農振除外手続きに時間を要し、平成29年度繰越分の工事進捗が遅れたことにより平成30年度の事業発注が遅れ繰越となったが、外構工事を計画通り実施し目標を達成した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)
	外構工事の完成	目標	( )	( 完成 )	( )	( )	( )
		実績		未完成			
		目標	( )	( )	( )	( )	( )
		実績					
進捗状況説明	農振除外手続きに時間を要し、平成29年度繰越分の工事進捗が遅れ、平成30年度の工事が繰越となった。また平成31年度では、製糖施設の建築工事を行っている関連事業「含みつ糖製糖施設近代化事業」が台風等気象の関係や資材供給難等により工事進捗が遅れ、大型重機の出入り、建築資材置き場の確保等、現場が煩雑となり一部工事を翌年度に実施することとなったため目標達成とならなかった。						

取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	台風等の天候の影響や資材供給難等により関連事業の工事進捗が遅れ、現場が煩雑になり、外構工事の一部の工程を完了することができず、結果不用額となってしまった。	関連事業の進捗状況および、当事業実施に伴う各工種毎の進捗や発注業者の問題点を、全体工程会議にて共有・調整・検討することで、課題解決に向けた早期対応および業者間の密な連携により適切な工程管理が図られる。
今後の取り組み方針		
全体工程会議にて、関連事業および行政・各業者間の連携を密に行い、適切な工程管理の推進に取り組む。		



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	支出先の選定方法については、指名競争入札により決定しているため、妥当である。 関連事業の遅れにより一部不用額が出たが、予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。 費用・用途については事業目的にのみ限定したことから妥当であったと考える。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		